

コング社製バックアップ(墜落阻止器具)の使用上の注意

一般社団法人ガラス外装クリーニング協会
安全技術委員会

平成26年6月に発生したメインロープ(作業用)が建物と接触していた箇所での切断し墜落した災害で、作業員はライフラインを別系統で下げ、バックアップ(墜落組織具)を使用していたが機能せずに約7m墜落し、骨折等の重傷災害に至った。

被災者本人からこの事故の状況を聞く事が出来、検証してみると使用方法を誤るとバックアップが機能しない事が解りましたのでご報告いたします。



被災者 30代男性 体重98kg

使用状況 セミスタティックロープ 11mm(使用1年程度)
ランヤードに60cmのオープスリングを使用
バックアップとスリングとのコネクターは付属のスチール製カラビナ
シットハーネスとスリングとのコネクターはアルミ製カラビナ
事故の直前、バックアップは左足かかとあたりに位置していた



事故の瞬間、被災者は目の前にあったライフラインにしがみつこうと手でロープを巻きこみそのままの状態にたたきつけられた。

検証 バックアップが下方にあるとき足で挟み込むと一切機能しない
被災者がロープにしがみついた際、足でバックアップを挟み込んだと考えられる
※ バックアップとハーネスとを繋ぐランヤードにはエネルギーアブソーバーを使用する事
60センチのオープスリングは、不適切な使用方法である



検証 バックアップを下方に置き、ライフラインとランヤードを一緒につかむと機能しない
※ バックアップは落下回数1以下で使用するために常時腰より高い位置で使用する



検証 バックアップのカラビナをつかみながら下降すると機能しない
※ この状態で墜落すると、人は反射的に握るため役目を果たさなくなる



検証 バックアップのカラビナをスチルからアルミに替えると機能し難い
※ 付属品を変えることは、改造に当たるので絶対してはいけない



検証 開いた状態で絵のとおりに取り付けると逆向きになる
※ 取り付けが逆になると一切機能しないので間違わないようにする



考察 今回検証した事は、ほとんどが取扱説明書ではいけないことと書かれていることでバックアップにとどまらず、すべての使用する器具等は取扱説明書を熟読し、解らない場合は購入した販売店で確認することが重要である。
決して勝手に使いやすくしたり、楽な使用方法で作業を行ってはいけない。
万が一の墜落を止めるライフライン、墜落阻止器具は飾りではないことを肝に銘じて慎重に取り扱うことが重要と考える

自ら学んで、自分の身は自分で守る姿勢が最も大事と考える。